

ひとのちから

CLOSE UP



日本野鳥の会
熊本県支部

荒玉地区幹事

安尾征三郎さん

やすお・せいざぶろう 昭和14年生まれ、東宮内在住。国指定保護区管理委員や三池鳥アジサイ類調査委員会委員長を務める。趣味は野鳥観察。一番好きな鳥は、人間に一番近くて可愛い「すずめ」。

昨年の7月、荒尾干潟が国際的に重要な湿地として認められ、ラムサール条約に登録されました。長年、荒尾干潟でシギ・チドリ類の調査を続け、条約登録に尽力した一人が日本野鳥の会熊本県支部の安尾征三郎さんです。

「この1年で関心のある人がとても増えました」と笑顔で話す安尾さん。今年2月に開催した「荒尾干潟のワイズユースを考えるシンポジウム」では300人以上の来場者でにぎわい、探鳥会や研修会も予想より多くの参加者が集まるなど、確実に関心が高まっています。

「国際条約によって鳥たちが保護され、生息環境が保全される。鳥たちにとってこんなに嬉しいことはないです」と、安尾さんは感慨深く話します。これまでシンポジウムの開催や案内看板の設置、ボランティアや有志による清掃活動など、行政と市民が一体となってさまざまな取り組みを行ってきました。中でも、地域住民と日本野鳥の会が共催して行う荒尾干潟探鳥会は

8年目を迎えます。

「ラムサール条約に登録されたことは、行政も市民も渡り鳥の保護と干潟環境の保全、未来につなげる賢明な活用に責務を果たしていくことです」安尾さんは、ひとりひとりが環境保全に配慮し、ボランティアの育成や連携を図ることで、「世界の荒尾」として国内外から訪れる学者や観光客を受け入れられるようなまちづくりが大切だと話します。

「荒尾干潟は世界の宝物です。荒尾から世界に向けて発信していきましょう」将来は荒尾干潟から有明海全体にラムサール条約登録を広げ、九州にある豊かな湿地と連携して、環境と観光を楽しむ「エコツーリズム」に取り組んでいけたらと、安尾さんは目を輝かせます。

「鳥には国境はありません」遠く海外から荒尾にやってくる鳥たちが取り持つ縁で、国際交流をしていきたいと思います。鳥と共に荒尾が世界に羽ばたく未来を見据えて、安尾さんは今日も干潟に向かいます。